

第7回多治見市役所本庁舎跡地等利用検討市民委員会 会議録

日 時	令和7年12月24日（水）午後3時00分～午後4時30分
会 場	多治見市役所本庁舎5階第1委員会室
出席委員	川口暢子委員（委員長）、網干牧夫委員、安藤英利委員、小口英二委員、加藤由紀委員、倉地円香委員、田代伸一委員、長尾純夫委員、長崎恵美委員、羽瀧朋之委員、原國夫委員、日比野正治委員
欠席委員	八橋祐司委員
事務局	佐藤総務部長、長谷川新庁舎建設事務局長、山本課長代理、安田主査、佐藤主査 日本工営都市空間㈱：2名
傍聴人	3人
報道機関	1社

会議結果 要旨

1. 本庁舎跡地等利用検討に関する市の考えについて意見交換がなされた。
2. 市民ワークショップの意見整理及び中間とりまとめ（案）について意見交換がなされた。
3. 新庁舎建築基本設計（案）について事務局から説明がなされた。
4. 今後の委員会開催方針について意見交換がなされた。

議事 次第

1. 開会のあいさつ
2. 本庁舎跡地等利用検討に関する市の考えについて
3. 市民ワークショップの意見整理について
4. 中間とりまとめ（案）について
5. 新庁舎建築基本設計（案）について
6. その他
7. 閉会のあいさつ

質疑応答

1. 本庁舎跡地等利用検討に関する市の考えについて

- | | |
|------|---|
| 委員長 | 資料1_2(2)について、これまでの委員会及びWSで話してきた内容との繋がりがなく、市の計画が先行してしまうように感じた。 |
| ⇒事務局 | 市は公共施設適正配置計画(H31.2策定、R6.3改定)に基づき、施設の統合・複合化等を進めることとしている。11月ごろから3施設の統合・複合化についての話が浮上し、今後、可能性について検討していく予定である。 |
| 委員 | 公共施設適正配置計画の取組は承知している。資料1_1(2)について、「解体が前提であること」や「統合・複合化の候補地となること」よりも、事業費を抑える意味でも、今ある施設を有効活用する方針がよいのではないか。 |
| 委員長 | これまで議論してきた内容が実際に活かされるのかどうか、気になっている方もいると思うが、その点についてどのようにお考えか。 |
| ⇒事務局 | 仮に3施設の統合施設を本庁舎跡地に整備することとなった場合、市民が活用できるような空間を併設することはできると考えている。 |
| 委員 | 陶器に関する3つの施設をまとめることに本当に意義があるのか。また、ミュージアムはすぐ隣に現代陶芸美術館がある中で、多治見市が運営する意味についても疑問である。陶磁器意匠研究所と対象敷地の面積はいずれもほぼ同いため、これまで議論してきた「市民が憩える場所」や、オリベストリート周辺の観光客用駐車場としてのスペースを確保できない恐れがある。候補地の一つとして考えている点は理解したが、この場所はふさわしくないと考える。 |
| ⇒事務局 | 老朽化等の要因から現本庁舎を継続利用することは困難であり、費用対効果の観点からも現実的ではない。 |
| 委員 | 公共利用の場合は現状の通りだが、民間が利用するなら工事費を民間で負担する方法も考えられる。 |
| 委員 | 12月3日には地域の祭りがあり、多くの人が集まった。庁舎前の広場(駐車場)がなくなると、こうした活動もできなくなる。市の中心地として重要な場所なので、特定の人だけが使う施設になるのは避けるべきである。地元にとっても長く関わる施設になるので、慎重な検討が必要である。 |
| 委員 | この場所を中心としたまちづくりの必要性について、市民が集える場所を最優先で検討して欲しい。また市の施設を設置する場合は連携方法も検討願いたい。そして施設の集約の必要性は、市で整理し、決定をお願いする。 |
| ⇒事務局 | 仮に3施設の統合案が事業化する場合、本庁舎跡地は候補地の一つとなり得ると認識している。近隣には美濃セラミックパークもあるため、本当に必要かどうかについては今後慎重に検討していく。 |
| 委員 | 施設統合の議論はここで据え置き、まずはWSのとりまとめについて先に内容を共有してほしい。その上で、市の計画も含めて議論を進めたい。また、公的な施設がある程度含まれていることで、地域の賑わいにもつながると考える。 |

2. 市民ワークショップの意見整理について・中間とりまとめ(案)について

委員	これまでの委員会の議論を踏まえ、資料2概念図に表現している「地域施設」「賑わい広場」「駐車場」の3つの軸を大事にしてほしい。
委員	WSでは、条件提示せず多世代の意見を取り入れた結果、誰でも自由に使える場所になったが、適切かどうか疑問が残る。ターゲットとなる世代を明確にする必要があるのではないかと。都心でも廃校の活用等が進む中、集客を重視するのであれば、企画・コンセプトを確立して、しっかり投資して質の高い施設を作るべきと思う。
委員長	「世代」や「用途」を限定しない表現が多く見受けられる。高齢者や学生といった具体的なキーワードも挙がっているので、それぞれの代表的なターゲットを明確にしたペルソナ分析を行うことで、今後の振り返りにも役立つのではないかと。
⇒事務局	公共施設である場合、通例は全市的な活用を想定するが、実際に具体策を講じるにはターゲットの設定が必要になる場面もあると理解している。ただし、まちづくりの視点をもって進める中では、表現方法を模索している。
委員	公共空間は幅広い利用が想定されていることは理解しているが、それだけでは独自性が失われてしまうと思う。たとえば、虎渓用水広場の場合、「高校生がここで勉強できる場所」を出発点に設計されたことで、今のような特徴的な形になった。
委員	個性の観点から考えると、多治見市の課題は人口減少である。その抑制策として、この場所の活用方法を検討してほしい。また、今後の多治見市の方向性を示すシンボルにもなってほしい。これまでの施策の流れの中で統合施設ができるのではなく、新たな方針として明確に示していただきたい。
委員	陶磁器に関連するミュージアム機能を跡地に集約する案は、川南地区で検討されている。また、陶磁器意匠研究所を公園の中に開設することで、市民が集まる場になる可能性もある。市役所として、この場所にどれだけ予算を投入できるのか明示していただければ、さらに具体的な検討が進むと思う。
委員	今後も若者が住み続けたり集まったりできる場所が望ましい。独自の魅力があるまちは、人々のにぎわいにもつながり「ここだけのもの」が地域の魅力になると考える。
委員	多治見市は、子育て支援や遊び場が充実していると子育て支援センターを訪れる母親から好評だが、母親が安心できる場所も必要との意見がある。観光客向けか定住者向けかによって施設の設計も異なるため、優先順位を決めて選択する必要がある。
委員	跡地について検討を始めてから、大学誘致の話などが出てきて状況が次々と変わっているため、何を考えるべきかが定まらず難しいと感じている。
委員	検討過程としては、この方法で問題ないと考えている。WSで多くの意見を収集したうえで、この段階でしっかりと方向性を検討し、市の予算という制約内で計画が形作られていくので、プロセスとしては順調に進んでいると思う。
委員長	時代の変化によって、5年後に求められることは変わるだろう。しかし、今このタイミングで議論することにも十分意味があると考えている。
3. 新庁舎建築基本設計（案）について	
委員	駐車場の数が不足すると感じているが、さらなる確保策の検討はいかがか。
⇒事務局	需給調査の結果から、既存の3つの駐車場で賄うことができると判断している。運用方法や、さらなる確保策は引き続き検討していく。

委員	新庁舎と駅北庁舎の接続部が2階のみであり、来庁者や職員に不便ではないか。また、南北自由通路と新庁舎2階の高低差があり、バリアフリー上の問題はないか。
⇒事務局	南北自由通路から駅北庁舎間の動線確保の観点から2階で接続することとし、その他フロアの接続は技術的に困難であった。接続棟における段差解消期、エレベーターを利用いただくことでバリアフリーに配慮している。
4. 今後のスケジュール等について	
委員	現在の開催スケジュールで利用検討案はまとまるのか。次年度は、更に開催回数を増やすべきでないか。
⇒事務局	次年度は全3回の開催を予定しているが、現時点では3施設統合案の方向性を見定めることとしている。
委員	委員会開催にあたり、会議の目的を明示してほしい。今回確認した中間とりまとめは、今後どのように扱うのか。
⇒事務局	次回は、中間とりまとめの具体内容について本格議論を行いたい。 以上